

北陸農政局事前評価技術検討会（第 1 回） 議事概要

- 1 日 時：令和 5 年 6 月 5 日（月）13:30～15:30
- 2 場 所：金沢広坂合同庁舎 第 1・2 会議室（7 F）
（委員 2 名、信濃川水系土地改良調査管理事務所は Web による出席）
- 3 対象地区：新津郷排水地区
- 4 委 員：上澤 聖子 一般社団法人 朝日町観光協会 (Web)
根岸 睦人 新潟大学 准教授 (欠席：事前説明)
浜野 剛 (株) 北國新聞社 編集局統括デスク長
松本 恵子 みらい(株) マネージャー (Web)
森 丈久 石川県立大学 教授
(五十音順)

5 議 事：

北陸農政局事前評価技術検討会（第 1 回）を開催し、令和 6 年度事業着手予定地区である国営かんがい排水事業「新津郷排水」地区に関する、評価結果（案）及び効用について、審議した。

質疑応答の概要は以下のとおり。

（委 員） 地域の取組と環境配慮で面白い取組をしている。ホームページに取組内容を掲載しているとのことであり、紹介された内容は、夏休み期間に自由研究で子供からのアクセスが集中すると思うが、一步踏み込んで、例えばホームページをグーグルアナリティクスでアクセス解析をして、いつ、誰が、どんなことに興味を持っているか、についてフィードバックし、市場認知を確認しつつ市民へ開かれた情報提供があると良いと思った。現状どのように考えているのか教えてほしい。

（農政局） ホームページでグーグルアクセス解析といった対応等は取られていないが、ご指摘踏まえて、今後検討したい。

（委 員） 費用対効果分析総括表の評価期間が「当該事業の工事期間+40 年」で 58 年となっているが、総費用の考え方では、「当該事業の工事期間（15 年）+一定期間（40 年）」の 55 年間となっている。どちらが正しいのか。

（農政局） 費用対効果分析総括表の評価期間 58 年間である。内訳として当該事業の工事期間 15 年+40 年に施設機能監視期間の 3 年間を加え、58 年となる。

(委 員) 排水機場という重要施設が日頃から県や土地改良区に適切に管理されており、日本有数の穀倉地帯であるこの土地が、機械排水が必要なくらいに負荷を背負って成り立っているということを広く伝えてほしい。

また、整備対象の２機場は、既に耐用年数を超過しているという認識でよいか。

(農政局) ２機場とも標準耐用年数を超過している状況である。

(委 員) 県や土地改良区がこれまで適正に管理してきたおかげで何とか持ちこたえてきたと思う。新潟県下では 30 箇所を超える排水機場を抱えていると思うが、そのうち国営事業の要件を満たしていて、また耐用年数を超過している施設はどのくらいあるのか。

(農政局) 正確な数字は、手元にないが、基本的には耐用年数を大きく超え、施設の機能に不具合が生じた場合には、更新事業に向けて調査を開始し施設の状況等を把握することとしている。

国営で整備した排水機場については、当該地区の２機場以外で、今すぐ手を打たなくてはならない施設は、今のところないので、他の排水機場については問題なく動いていると判断している。

(委 員) 了解した。県や土地改良区でも、今後、機能診断などを行いながら優先順位を付けて計画的に事業化していくと考えられるが、事故で止まった際の影響が大きい施設だと思うので、コスト縮減も考慮しつつ、引き続き計画的な事業化に尽力してほしい。

(農政局) 貴重な意見に感謝する。排水機場は、地域にとって欠くことのできない施設なので、しっかり施設の経過年数や状況を把握する必要がある。機械の場合には、運転時間や経過年数を把握し、土木施設については機能診断を行い、劣化状況等の状態を監視していく必要がある。

一方で、建設当時の能力で大丈夫なのか、機能を向上させる必要はないか、といったことも含め施設管理者と連携を取りつつ機能の保全に努めているところである。

(委 員) 排水機場は二、三十年前に造ったものであるが、今の技術を取り入れて改修されるのか、同じ場所に新設されるのか。

(農政局) 事業計画の検討に当たっては、それぞれ既設の排水機場の横に新しく造り直した場合と、現状の排水機場を分解整備して更新した場合について、経済比較を概算で行っている。その結果、新しく造り直すよりは、分解整備し、更新し

たほうが経済的であると判断されたことから、既設の排水機場を分解整備するという方法を選定している。

以上